

平成 23 年 1 月 11 日
福祉部高齢社会対策課

検討課題「地域貢献につながる社会参加の促進」について

【求められる施策】

1 高齢者の約 8 割は、元気な高齢者である。また、高齢者はこれまでの人生で様々な知識、経験、技術を培っている。今後ますます進行する少子高齢化により、地域社会の活力低下が懸念される中、こうした元気な高齢者には、自らの知識、経験、技術を活かして、地域活動の担い手となり、地域社会の活力を維持していく役割が期待されている。
超高齢社会を迎えるにあたり、高齢者が、地域社会の担い手として、多様なかたちで地域社会に参画し、自らの知識、経験、技術を活かすことができる様々な場・機会が提供される環境づくりが求められている。

2 一方、レクリエーション活動等の気軽に参加できる活動と、地域福祉などの社会貢献度の高い活動では、参加のハードルの高さに違いがある。

また、分野別の状況を見ると、地域・社会活動への参加状況については、「参加したことはない」と回答した人が「参加経験がある」と回答した人を上回っており、身近な地域での活動への参加は進んでいないことがうかがえる。

しかし、今後の地域活動・ボランティア活動などへの参加意向について質問すると、多くの人が「活動したい・参加したい」と回答しており、環境を整えば地域での活動に参加する意欲を持った高齢者が多いことも分かっている。

3 様々な知識、経験、技術を持つ「元気な高齢者」や、仕事・子育て等を終え、身近な地域における社会参加活動に関心を示している「これから高齢期を迎える方」は、超高齢社会での活力ある地域づくりを支える重要な存在である。

「元気な高齢者」や定年退職し地域に戻ってくる「これから高齢期を迎える方」が、いきいきと豊かな生活を送るために、地域の中で新たな「いきがい」を見出すことが必要である。

4 今後は、気軽に地域活動への参加、いわゆる「地域デビュー」を奨める多様な社会参加への支援に加え、支援を要する高齢者の見守りをはじめとする、地域住民による支え合い等の地域貢献につながる活動を積極的に支援し、促進することが求められている。

【検討課題の論点(案)】

高齢者が、身近な地域への関心を深め、地域の共生を支える活動に参加しやすいよう、社会参加の促進のための施策を、主につぎの 3 つの視点から検討する。

- ① 場・機会の提供
- ② 活動に取り組む人材の育成
- ③ 情報の提供